技術研究報告の発刊にあたり

執行役員 技術本部長
永田 尚人

熊谷組技術研究報告第７６号の発刊にあたり，一言ご挨拶申し上げます.

熊谷組は, 2018年1月に創業120周年, 2018年４月につくば技術研究所開設30周年を迎えます. これはひとえに，お客様をはじめ関係各位の温かいご支援とご愛顧の賜物であり，この場をお借りして厚く御礼申し上げます.

当社は，創業当時より，工事施工にあたって親切を旨としお得意様の不安の除去に努めるだけでなく，信用を高め相互に共存共栄をはかることを常に思い描き，お客様や社会のニーズに対して常にチャレンジ精神をもって各種の難関な事業に取り組んでまいりました．この事業を実現する新しい技術についてはこれまで技術研究所を中心に研究開発を行っておりましたが, 2017年４月に，世の中に役立ち，建設業界の発展に寄与するようなオリジナル技術の開発を目指して研究開発体制を一新し,「技術本部」を新設いたしました.

東日本大震災や熊本地震等の大規模自然災害，少子高齢化の進展や今後予想される急激な人口減少，ライフスタイルの多様化，働き方の改革など，現在我々を取り巻く社会環境は大きく変化してきています．さらには，自動車のEV化，人工知能やロボット等の最先端技術の導入など，新しい技術は急激な速度で社会への実装が進められています．このような大きな環境変化の時代を迎えるなかで，解決すべき課題は広範かつ多岐にわたってきております.

これらの新たな課題に対して，効率的な技術開発を実施するためには，異業種とのオープン

イノベーションを進めることが重要となり，スピード感をもって「お客様にとっての新たな価値を創造する」ことが，我々がなすべき大きな目標であると思われます.

今回お届けする技術研究報告では，関東学院大学建築・環境学部の大塚雅之教授による「本質が求められるZEBへの期待」と題する巻頭言を頂いております．研究分野では，コンクリートの圧縮強度推定試験法の提案やVRを活用した風環境の可視化システムなど，11編の研究論文と研究報告について紹介しております．施工報告では，土木分野３編，建築分野２編をご紹介するとともに，今年度から速報的な施工報告として，全国土木技術発表会から4編，全国建築技術発表会から3編の報文を掲載しています．また，本号では特別に，平成28年度土木学会吉田賞（論文部門）を受賞された土木事業本部の佐藤英明氏と足利工業大学宮澤伸吾教授による論文「ダムコンクリートにおける自己収縮ひずみの評価方法に関する研究」を掲載いたしました。

皆様におかれましては，この熊谷組技術研究報告をご高覧いただき，ご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます.